

チーム担任制について

— 個人が担う固定的な「学級担任制」から
集団が担う弾力的な「チーム担任制」へ —

学校法人三重徳風学園
徳風高等学校
徳風技能専門学校(併修校)

1 「チーム担任制」とは、どのような制度か。

- 「チーム担任制」とは、学級担任を一人の教員に固定せず、複数の教員がチームとなり、学級における生徒の指導等の業務をチーム全員がローテーションを組むなどして担当する学級運営の方法のことです。別名「学年担任制」とも言われています。
- 本学園では、次表のとおり、学年主任及び学級担当の計5名程度の教員がチームとなり、チーム全員が学年担任として各学級を担当します。

チーム		役割	
学年担任	学年主任	教員A	○学年全体を統括する。 ○学年担任として全学級の運営業務に従事する。
	学級担当	教員B 教員C 教員D 教員E	○学年担任として全学級の運営業務に従事する。 ○文書作成等の事務的業務に従事する。 ○保護者への連絡等の窓口業務に従事する。

2 どのような経緯で導入することになったのか。

- 本年度1学期において、退職者1名、休職者2名を数え、関係学級の担任交代や関係教員の担当職務の一部変更を繰り返しました。また、2学期が始まる9月1日には新規採用となる教員が着任する予定ですが、復職の目途が立たない休職中の教員もいます。

このように年度途中で校内人事の一部変更という事態になったことがきっかけとなり、「これ以上担任交代等を行わない。」との思いで、「チーム担任制」の導入を検討することになりました。

- これまで、既に「チーム担任制」を導入している学校を訪問して情報を収集したり、「学級担任制」との比較等を通じてメリット・デメリットを分析的に考察したり、導入上の留意点を洗い出したりして総合的に検討した結果、「チーム担任制」は、教員の「個人としての指導力」の個人差・限界を補い、「集団・組織としての指導力」の向上を促す可能性があることや、現在の喫緊の課題である「教員の働き方改革」を進める上で有効な方策であることなど、多くの改善をもたらす可能性があることが分かりました。

以上の経緯をたどり、個人が担う固定的な「学級担任制」から集団が担う弾力的な「チーム担任制」へと、本年度2学期から学級担任の在り方を抜本的に転換することを決めました。

3 どのような効果が期待でき、どのようなことが懸念されるか。

以下は、職員会議等で「チーム担任制」のメリット（期待される効果）とデメリット（懸念されること）について考察した際に、出された意見を集約したものです。

【メリット（期待される効果）】

- ① 教員一人一人の「強み」と「弱み」は多様であり、「個人としての指導力」には個人差があるからこそ、互いの「弱み」を「強み」で補い合う柔軟且つ強固な組織をつくることができる。
- ② 「学級担任制」は、“ワンオペレーション&マルチタスク”であるため、仕事の種類・量がキャパシティを超えると時間的にも精神的にも余裕がなくなり、適正さを欠く指導や対応の遅れにつながるリスクがあるが、「チーム担任制」ではこのリスクを回避できる可能性が大きい。
- ③ 「学級担任制」では「馴れ」や「思い込み」のバイアスによって生徒の変化を見逃すおそれがあるが、「チーム担任制」では日々の情報共有を通して「生徒の変化に気づこうとする意識」が高まり、一人一人の生徒を的確且つ多面的に理解することができる。
- ④ 「学級担任制」では、生徒が担任以外の教師に相談した場合、相談を受けた教員が必要に応じて担任に報告し、再度、担任が必要に応じて当該生徒から聞き取るという形をとるが、「チーム担任制」ではこのような生徒の負担を軽減できる。
- ⑤ 学級内に問題が発生した場合、マンパワー（人数、適材）を集中させるフレキシブルな体制を組むことができ、速やかな問題解決につながる。
- ⑥ 生徒は話しやすい教師に相談ができ、多くの教師と接することになるため、コミュニケーション能力の向上が期待できる。
- ⑦ 担任・生徒間の相性の悪さ等による問題の発生を回避でき、教師も毎日新鮮な気持ちで担任業務に従事できる。
- ⑧ 生徒は担任頼みの依存的な態度を取りにくくなり、主体性や自立を育む効果が期待できる。
- ⑨ 初任者や新任者に対する研修効果が期待できる。
- ⑩ 年次有給休暇や振替休暇が取得しやすくなる。

【デメリット（懸念されること）】

- ① 「学年担任」全員が各学級の経営を担うことになれば、責任感の希薄化を招くおそれがある。
- ② 学年主任のマネジメント力が求められ、過重負担となるおそれがある。
- ③ 生徒に人気のある教員に相談希望が集中し、多忙化を招くおそれがある。
- ④ 「チーム担任制」では共通理解・共通実践のための会議・打合せを頻繁に行う必要があり、その時間を確保できるかどうか懸念される。また、情報共有の内容・方法をチーム全員がよく理解し、その必要性・重要性に関する“意識改革”が必要である。
- ⑤ 生徒の中には安心して相談できる教員を見つけることが難しい者、内気な性格から教員と打ち解けるまで時間がかかる者がおり、取り残さないよう注意が必要である。
- ⑥ 生徒も保護者もどの教員に報告・連絡・相談すればよいのか判断に迷うかもしれない。
- ⑦ 我が国の学校教育界で蓄積されてきた学級経営に関する優れた教育実践が生かされず、日本の学校教育・学校文化を否定的にとらえた取組とみなされる可能性がある。
- ⑧ 生徒にとって経験したことがない仕組みであり、学級への所属感が薄れてしまうことで、安心して学校生活を送ることが難しくなる生徒もいるのではないかと懸念される。

4 チーム担任制をどのように運用するのか。

Q1 登校後と下校前のホームルームの時間は、どう対応するのか。

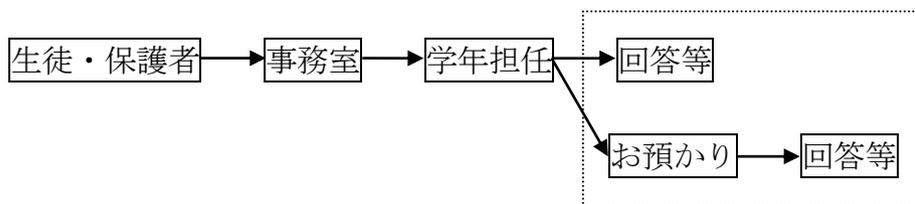
- 毎朝9時30分から10時までのショート・ホームルーム（SHR）の時間は、原則として、「学級担当」全員が、その日に割り当てられたいずれかの学級で10分間の諸連絡・学習準備と20分間の朝学習の指導業務に従事します。学年主任は全学級を巡回し、必要な指導・支援業務に従事します。
- また、その日の全ての授業と清掃終了後は、原則として、「学級担当」全員が、朝と同じ学級で5分間のSHRの時間に諸連絡等を行います。学年主任はいずれかの学級で、必要な指導・支援業務に従事します。

Q2 学校行事（体育祭、文化祭、修学旅行等）は、どう対応するのか。

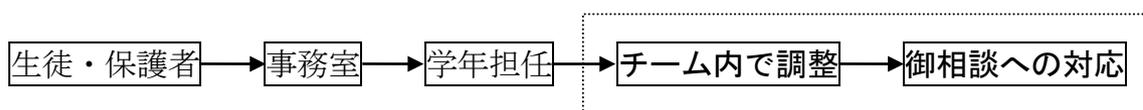
- 学校行事は、学校生活に変化を与えて張りを持たせ、学級等への所属感や互いの連帯感を深めたり、より良い校風をつくり、愛校心を高めたりするなど、通常の授業とは違う教育効果が期待できる学習活動です。このような特質を持つ学校行事は、生徒同士はもとより教員との触れ合いやつながりを深める絶好の機会です。
- 学校行事においても、特定の学級と特定の教員との関係を固定化せず、どの教員がどの学級の指導に入るかは、各学級の準備状況等を踏まえるなど総合的な判断の下、学級間の取組に大きな差が生じないよう「学年担任」全員で適切に対応します。

Q3 学年への問い合わせや相談等には、どう対応するのか。

- 生徒・保護者の皆さまからの電話等による学年へのお問い合わせは、まずは事務室でお受けした後、事務室で回答できる場合を除き、その時に対応可能な該当の「学年担任」につなぎます。その後は、以下の点線枠内のおりの対応となります。



- 学年・学級やお子様に関する御相談に対しては、チーム内のいずれかの「学年担任」がお受けした後、以下の点線枠内のおり、チーム内で調整の上、いずれかの「学年担任」が御相談に応じさせていただきます。（特定の「学年担任」を指名しての御相談は、原則としてお受けできませんので御了承ください。）



- 普段の電話等による連絡・報告については、チーム内のいずれかの「学年担任」にお伝えください。なお、連絡・報告いただく内容によっては、事務室にお伝えいただければ、その後事務室から該当の学年に伝えることも可能です。

Q4 三者懇談会は、どう対応するのか。

- チーム内で調整の上、原則として、いずれかの「学級担当」が対応させていただきます。